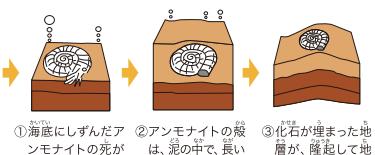


ジオサイト(ジオパークの見所)紹介

③ 小黒川沿いの戸台層—アンモナイトやサンカクガイの化石



■アンモナイトの想像図
アンモナイトはイカやタコのなまこまたさています



①海底にしづんだアンモナイトの殻が泥の上に埋まります
②アンモナイトの殻は、泥の中で長い年月をかけて化石になります
③化石が埋もれた地層が、隆起して地上に現れます

南アルプスの三波川変成帯と秩父帯との間には戸台構造線があり、この構造線に沿って白亜紀(約1億2千万年前)の浅い海にいたアンモナイトやサンカクガイなどの動物やシダ植物の化石が出る戸台層があります。その痕跡でいた動物や植物が、岩石に閉じ込められて化石になりました。戸台層の岩石は、浅い海にたまつた礁岩、砂岩や泥岩からなります。ここで見られるアンモナイトはどれもつぶれたり変形したりしています。これは化石が含まれる地層全体が地下深くにあったときに押しつぶされたことを物語っています。



1億2000万年前のアンモナイトの化石を探してみましょう。



■アンモナイトの化石(泥岩)



■「戸台の化石」学習会のようす



■サンカクガイの化石(砂岩)



■戸台の化石資料室(伊那市長谷公民館内)

戸台の化石は、100年以上も昔から研究者によって注目され続けてきました。しかし、化石マニアにより貴重な教育資源を持ち去られることが心配されるようになりました。そこで、1987年「戸台の化石」保存会が結成されました。戸台の化石保存会では、毎年、現地でアンモナイトなどの採取が体験できる学習会を開催しており、地元のみならず県外から多くの家族連れが集まります。どなたでも参加できますので、化石に興味のある方は、学習会に出かけてみましょう。

「戸台の化石」保存会は、戸台の化石を学び、产出地を保全し、多くの化石ファンの理解と協力によって戸台の化石を地元に保存、蓄積するという地道な活動を続けています。

④ 南アルプス横断ルートI — 南アルプスジオライン



■ジオラインガイドマップ

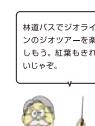


■南アルプス林道を走る林道バス、後ろは東(甲斐)駒ヶ岳

南アルプス林道バス

伊那市長谷黒河内の仙流莊から南アルプス北部の北沢峠まで、夏の時期を中心に南アルプス林道バスが走っています。出発地の仙流莊は標高860m、終点の北沢峠は標高2323mなので、標高差は1170mほどです。バスは三峰川の支流黒川に沿って走り、戸台大橋からは戸台川沿いにかけられた南アルプス林道(専用林道)をゆっくり走ります。南アルプス地域では、地層が南北方向に分布しているので、東西方向に横断するこの林道バスでは、さまざまな地質を観察することができます。

バスは戸台構造線、仏像構造線を通過していきます。短距離で3つの地質帯を行き来できる日本でも特殊な場所です。



■讃岩(左)と温石岩(右)

鷹岩(温石岩)

仙流莊を東に向かうとまもなく、岩山をくり抜いたトンネルをくぐります。この岩山は三波川変成帯の緑色岩でできています。鷹岩の名は昔、岩山に鷹の羽を広げた形をした岩があったことからつけられました。トンネルをくぐって左手に見える岩は蛇紋岩でできている温石岩です。昔、蛇紋岩は火で焼いて布でくるみカイロとして使ったので温石と呼ばれていました。蛇紋岩は文字通り、岩石の表面が蛇の皮膚の様子に似ている深緑色をした岩石です。



幕岩

戸台大橋を過ぎ、南アルプス林道を登っていくと、戸台川がはるか下を流れ、対岸の斜面が目に迫ってきます。特に白く帶のように連なる幕岩の岩壁は、雄大な眺めです。幕岩は秩父帶の石灰岩が露出した大岩壁です。

この石灰岩の帶は対岸からこちら側へ、さらにも南の大鹿村まで続いています。石灰岩の帶をよく見ると、西へ傾いています。南アルプスの北部ではこのように岩石の層がみな西へ傾いています。付加体として大陸にくついた時は東へ傾いていましたが、その後、伊豆・小笠原弧との衝突で、東から押し上げられたため、西へ傾くようになりました。



巨大な岩盤が構から押されてまくれてあります。



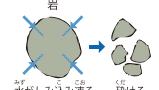
仏像構造線 唐沢露頭

さらに東へ進むと、唐沢をわたるあたりで秩父帶と四十万帯を分ける仏像構造線が現れます。仏像構造線はほとんど西側の秩父帶の石灰岩と、東側の四十万帯の砂岩が接しています。仏像構造線は中央構造線とほぼ平行して沖縄本島まで続いています。



仙水峰の岩海(岩塊斜面)

南アルプス林道バスは北沢峠が終点となります。北沢峠は仙丈ヶ岳や東(甲斐)駒ヶ岳の登山口になっています。東(甲斐)駒ヶ岳に向かう途中に、仙水峰があります。その手前西斜面は一面岩で埋め尽くされています。この沢山の岩の塊は、2万年ほど前の氷河期に作られたものです。これらは岩山に染み込んだ水が、凍つてふくらむことで岩山をくだけてきました。



鹿窓

歌宿沢を過ぎて尾根を切り込むと、正面に鏡岳が迫ってきます。鏡岳は四十万帯の砂岩が、1500万年ほど前に甲斐駒・鳳凰花こう岩のマグマの熱で焼かれてできた固い岩石からなる山です。断層などの割れ目が多いため、鏡のようにぎざぎざしています。目をこらしてみると、小ギヤップと第二高点との間に、高さ3mほどの小さな穴が確認できます。これは断層の部分が風や雨で侵食されてできた自然の穴で、鹿窓と呼ばれています。



■ヨシラシ—川下り米

南アルプスから流れ出る三峰川の水を引いて育てた伊那地域の「川下り米」は、ミネラルたっぷりの栄養豊富で大変おいしいお米です。

もともとは海の底にあった岩石が、大陸につけ加わり、隆起して南アルプスになりました。そこから流れだした水には、ミネラルが豊富に含まれています。



■ヨシラシ—シナノコザクラ

山地の石灰岩地帯に咲くシナノコザクラは、幕岩や白岩などの石灰岩の崖でみることができます。毎年5月中旬になると、可憐な花に出会えます。